

①

新実施計画「幸輝いちばら」

全年齢型の認可保育所 4園
 定員 120人 × 4園 = 480人 純増
 スケジュール H26 公募 2園
 H27 建設 2園 公募 2園
 H28 開設 2園 建設 2園
 H29 開設 2園
 H29までに3,076人分の受け皿を確保
 ・H26.4.1 全保育所 定員 2,536人
 ・H27.4.1 杏第二保育園 定員 60人
 ・H28~29 4園 定員 480人

②

ニーズ調査（暫定値）

ニーズ調査により潜在的ニーズがすべて顕在化するものとして推計した暫定値であり、今後、育児休暇の取得状況等を踏まえた補正が必要となる。

●保育の「量の見込み」年齢別内訳

	推計値	整備必要数
3歳未満児	2,344人 (1,422人)	
3歳以上児	1,780人 (199人)	
計	4,124人 (1,621人)	

※（ ）内は、保育所利用者数を除いた数値

●保育・教育の「量の見込み」希望区分（3歳以上児対象）

保育利用（保育所等）	1,780人
教育利用（幼稚園等）	4,214人

③

私立幼稚園

●受け入れの現状（H26.5.1現在の速報値）

定員	5,745人
利用者数	3,858人
受入可能数	1,887人

●認定こども園化の意向調査（H26.3実施分）

23園中 移行希望4、現行のまま10
 新制度幼稚園1、未回答8

※移行希望4園中1園から、H27.4開設を目指し、3歳未満児60人の受入拡大の意向が示された。

④

認定こども園化のメリット

- 1 既存施設の活用により短時間で整備が可能
- 2 保育士資格を有する幼稚園教諭の有効活用が可能
- 3 保護者の就労状況の変化に関わらず、柔軟な受け入れが可能

認定こども園と認可保育所整備のバランス

- 1 新制度の柱である認定こども園への円滑な移行に配慮するよう、国から通知有
- 2 待機児童の大半を占める3歳未満児の受け入れを行う認定こども園化を最優先
- 3 認定こども園化の意向調査では保育ニーズに対して不足が生じることから、併せて保育所の整備が必要

⑤

施設整備方針

- 1 私立幼稚園の認定こども園化（3歳未満児の受入枠拡大・確保）
- 2 認可保育所（民間）の新設（3歳未満児対象⇒卒園児の受入先確保を要件）
- 3 私立幼稚園の認定こども園化を優先（原則として、私立幼稚園の意向を踏まえ、私立幼稚園の認定こども園化を優先）

⑥

具体的な対策

【平成26年度】

- 1 私立幼稚園の認定こども園化を促進（H27.4開設）・・・3歳未満児60人拡大×1園
 ⇒ 6月補正予算対応（市支出額 80,073千円（財源内訳：国県 53,382千円、地方債 21,300千円、一般財源 5,391千円））
- 2 3歳未満児専用の認可保育所を整備（H28.4開設）・・・定員60人×2園（卒園児の受け入れ先として私立幼稚園を活用）
 ⇒ 6月補正予算（債務負担行為変更）、公募2園（市支出額 186,934千円（財源内訳：国県 166,164千円、地方債 16,600千円、一般財源 4,170千円））

【平成27年度以降】

市町村子ども・子育て支援事業計画において、様々なニーズを踏まえ、ハード・ソフト両面からの多様な保育サービスの提供を総合的な視点から定める。